

コカナダモ モニタリング報告

【経過】

コカナダモは炭酸同化作用を行う藻類であり、環境（水質等）を悪化させるものではないが、①外来種であり、在来種を駆逐するおそれがある ②旺盛な繁殖力で密生したコカナダモが水面付近まで生長することで水面の反射率を下げたしまい、観光資源としての裏磐梯湖沼群の魅力を低減させてしまう恐れがある といった観点から、平成25年より狐鷹森行政区を中心に、各関係機関と連携して曲沢沼の外来生物コカナダモの駆除活動を行ってきた。

一昨年ごろより、曲沢沼下流である曾原湖全体にも大繁茂し、ボートの出し入れ等も困難となってきた。裏磐梯エコツーリズム協会では、地球環境基金助成金を受け「外来種駆除活動」の一環として、曾原湖南岸、東岸においてもコカナダモ調査駆除活動を実施した。除去作業の結果（水面の状況）について、継続調査（モニタリング）を行い報告することとする。

当協会では、コカナダモの減少による環境の改善から、地域内外来生物に対する認知度の向上ならびに環境改善を目指した取り組みへの理解促進を図りたい。

【概要】

(1) 実施期日

- 第1回 令和元年 7月1日 曾原湖南岸モニタリング（地点A）
- 第2回 令和元年 7月3日 曾原湖南岸駆除活動・モニタリング（地点A）
- 第3回 令和元年 7月18日 曾原湖東岸駆除活動・モニタリング（地点B）
- 第4回 令和元年 7月22日 曾原湖南岸モニタリング（地点A）
- 第5回 令和元年 8月30日 曾原湖南岸駆除活動・モニタリング（地点A）
- 第6回 令和元年 8月31日 曾原湖南岸モニタリング（地点A）
- 第7回 令和元年 9月5日 曲沢沼駆除活動・モニタリング（地点C）
- 第8回 令和元年 9月22日 各湖沼モニタリング

(2) 調査者

真野真理子、赤木進二、立花千秋

(3) 駆除従事者

真野真理子 立花千秋 赤木進二 鈴木正代 伊藤延廣 友坂 豊 新井 徹
長岡幸二 池田明美 渡部のり子 井上康夫 立花千春（会員 サポーター会員
協会スタッフ） 狐鷹森地区皆さん 商工観光課 ビジターセンター 保護官事務所
ジオパーク協議会

【結果】

(1) 生育状況

- ・第1回、第2回においてコカナダモは湖沼の水中に繁茂しているが、水面に浮葉はなく、駆除活動においても柄の長い熊手を水中に差し入れて引き上げる作業となった。
- ・第3回では、コカナダモが水面を埋め尽くすように繁茂し、駆除活動は船から素手で引上

げることが可能であった。

- ・第4回では、湖岸の駆除活動を行った部分に関しては水面に浮葉はなく、コカナダモが減少した。しかし、曾原湖全体では、水面にコカナダモが繁茂していた。
- ・第5回では、第2回で駆除した範囲であったが、コカナダモは依然水中に繁茂しており、1-2か月の間に駆除しきれないものが成長したと思われた。
- ・第6回では駆除後ということもあり、湖岸ではコカナダモが減少していた。
- ・第7回ではコカナダモが曲沢沼の水中を埋め尽くして繁茂しており、沼面の約3分の1程度をコカナダモの浮葉が覆っていた。駆除活動は水面を覆っているものを中心に行い、活動後は減少した。
- ・第8回では、曾原湖全体のコカナダモが激減し、岸から水面上には確認できなかった。曲沢沼では依然浮葉があるものの、第7回のような状態ではなかった。

(2) 景観確保

- ・曾原湖においては、第3回から第6回まで湖全体に浮葉があり、景観を阻害していた。
- ・曲沢沼においては、第7回で水面の約3分の1を浮葉が覆い、景観を阻害していた。

(3) 水路の確保

- ・曾原湖において、第1回、第2回ではコカナダモが水中にあるため、何とか水路は確保されていたが、第3回から第6回まではコカナダモが水面を覆い、湖の島へ近づくことができず、ボートの出し入れも困難であった。しかし、第8回ではコカナダモが激減しており、全く支障のない状態となった。
- ・曲沢沼においては、第7回の駆除活動の折、ボートのオールがコカナダモによって動かせない場所があった。

【考 察】

(1) 生育状況

- ・曾原湖では、第2回から第6回まで、水中水面を繁茂し、第8回では激減した。明らかな原因は不明だが、7月中旬から水温の上昇とともに急に生育し、9月に入ると水温が低下し自然に枯れたと推測された。また、湖岸事業所の方々は9月の台風（当地では風台風だった）で水面が極端に波立ち、波の流れで表面のコカナダモを湖底に移動させ、光合成ができず枯れたのではないかと推測していた。いずれにしろ毎年経過を観察していく必要がある。
- ・曲沢沼では9月になっても水中水面で繁茂しており、枯れる時期が遅いと思われる。今後は7月から水面で観察できなくなるまで、モニタリングをしていく必要がある。また曲沢沼は曾原湖より山際にあり曾原湖のような風の影響は少ないと思われ、コカナダモの生育に関して、地形的なことも考慮に入れたい。
- ・曲沢沼では平成25年より行政区を中心として駆除活動を行っている。しかし、依然水面にまで成長するコカナダモがあり、駆除に難渋している。人員や時間の関係で、毎年完全には駆除しきれず、かなり多くのコカナダモが残ってしまい、ちぎれた浮葉が成長してしまうためと思われる。

(1) 景観確保

- ・曾原湖では7月中旬より9月初旬まで水面を覆うのでその間、景観が阻害されていた。
- ・曲沢沼では、9月中水面でコカナダモが観察できたので、秋の紅葉シーズンになっても、景

観が阻害される可能性があると思われた。今後はモニタリング時期を延ばす必要があると思われた。

(3) 水路の確保

- ・曾原湖では、7月中旬より9月初旬まで、コカナダモが水面にあり、ボートの出し入れ、島への近づきなどが困難であった。そのため観光にも影響が出ていたと思われた。今年度は、南岸と東岸の栈橋付近を中心に駆除活動を行ったが、効果が認められるのであれば、今後、大規模な駆除活動も考慮に入れる必要がある。しかし、9月に入ると急に激減したため、いっどこまで駆除が必要か関係各所と検討しなければならないと考える。
- ・曲沢沼ではボートの貸し出しなどは行われておらず、水路の確保に関しては駆除活動の折に困難となるだけである。

(4) 駆除活動

- ・駆除活動に関しては駆除活動報告書を参照のこと

以上

・地点図

